

社会民主主義 フォーラム

全国 通信

No.26

2022年
4月23日

〒102-0083

東京都千代田区麹町 1-6-9

DIK 麹町ビル 704 号室

TEL : 03-6272-8135

FAX : 03-6272-8136

Mai : forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

参院選へ 働く者の立場で存在感と発信力を強めて

◆◆労働組合との懇談会開く

4月20日午後、「労働組合と社会民主主義フォーラムとの懇談会」が開催されました（写真）。当日は7労組1団体から12名が参加し、立憲民主党への期待や参議院選挙の課題などについて率直な意見が交わされました。フォーラムからは吉田忠智参議院議員、吉川はじめ衆議院議員などが出席しました。

●以前「個人商店」と揶揄されつつも方向性を打ち出していたが、現在はかすんでしまっている。マスコミへの露出も少なく国民民主のほうが目立っている。参院選に向けては対決姿勢と共に連合へのはっきりした物言いが必要。

●候補者を抱えコロナ禍での活動制約にやきもきし、同時に低迷する支持率も危惧している。1300万票の目標に向け何をどうアピールしていくか。地域組織の強化も課題で、宣伝物など党組織と組合との有機的な連携が大切だ。

●野党が追及しなくなったら野党ではないし、このまま参院選を迎えることに危機感を持っている。組合員に話すとき「だから立憲なんだ」と自信を持って訴えられるよう、党の姿や主張をもっと明確に示すことが求められている。

●労組は立憲民主党支持で発信しているが、組合員からは「以前とは違うね」と言われる。政策要請では一緒に議論させてもらってきたが、党の表舞台には声が届いていないという現状で、あらためて党の姿をはっきり見せて欲しい。

●「頑張れ立憲」という気持ち。野党の分断許さず立憲民主党には、連合にしっかり物を言って欲しい、現場をもっと知って欲しいということを期待したい。「核共有」などきちんと批判しなければ、今度の選挙「大丈夫か」となる。

●立憲民主党しか政権交代を目指す固まりはできないとの立場で取り組んできた。マスコミから「比例では



5議席（しか確保できない）」と報道されるようでは、「これで政権交代を担えるのか」と感じる。もっとアピールが必要。

●若い組合員と、なぜ労働組合が政治闘争を行うのか小冊子を作り学習会を計画している。私たち労働者のための政党という立場をはっきりと。選挙においては地域の中で党と労働組合を結びつけられるような場を作って欲しい。

●参院選の争点は国会論戦を通じて示されなければ、国民の中に広がらないのではないかと。核や防衛費2%、武器輸出などへの反論が求められる。どこまで連携して運動や組織、支持拡大を図ろうとするのかあらためて問われている。

社会民主主義フォーラムは労組の皆さんの声を受け止めしっかりと役割を果たしていきます。4月19日現在の選挙区候補は27名、比例区候補は9名です。連休前には政党ポスターが送付されます。メーデーや憲法大集会と共に、全員必勝に向けて奮闘しましょう。

2022参議院選挙 政治セミナーのご案内

□第1回セミナー

テーマ 参議院選挙をどうたたかうか

講師：西村智奈美 立憲民主党・幹事長

日時：4月27日（水）18時～

会場：参議院議員会館B104会議室

（オンラインでも参加可能です。お問い合わせは 03-6272-8135 フォーラム事務局まで）

□第2回セミナー

テーマ 参議院選挙の主要な政策課題

講師：小川淳也 立憲民主党・政調会長

日時：5月31日（火）18時～

会場：決定次第ご案内します

労組との関係を緊密に 参議院選挙勝利へ決意 埼玉



3月30日に、熊谷裕人参議院議員（県連合代表代行）、高木まり県議（埼玉県選挙区選挙予定候補者＝写真）を来賓に招き、第2回埼玉社民フォーラム総会を開催しました。

この一年間の活動については、役員会に県連合役員を招き、党、あるいは議員としての活動報告を受け、それを機関紙（概ね月1回発行）に掲載し、フォーラムの認知度を高めてきたことが報告されました。衆議院選挙では、小選挙区総支部に所属する党員は少数であっても積極的に行動することによって信頼を高めたと参加者から発言がありました。

参議院選挙については、定数4のところ自民、公明、前知事（国民推薦）が決まり、残りを立憲、共産、維新で争うという厳しい情勢が述べられ、各総支部でのポスター掲示活動等はもちろん、県連合と推薦労組との支持協力関係を緊密化させることや、党としての組織活動の強化を訴えていくことが了承されました。これらの課題実現のために、参議院選対関係者との話し合いも始められました。

護憲平和センター結成し 地域から運動再構築へ 宮城



社民フォーラム宮城第3回総会が4月10日、宮城自治労会で役員代議員60名が参加して開催されました。県内では地域での運動と組織継承の柱に地域護憲平和センターを位置づけ、地域護憲平和センターの結成、強化に取り組んできました。社民フォーラム、労働組合、市民団体、学者文化人などと一体となり地域からの運動再構築です。気仙沼、栗原、登米、石巻、大崎、遠田、黒川、塩釜、仙南の9地区、仙台市は各区（青葉、太白、宮城野、泉、若林）で結成しました。

コロナ禍のなか、集まりが少なくなっていますが、総会では全国護憲大会の受け入れや各地区の取り組みの報告交流が行われました。私たちの呼びかけにより、立憲民主党県連内に「福島第一原発ALPS処理水対策プロジェクトチーム」が作られ、漁業や商業、観光団体等との意見交換、申し入れなどが取り組みました。

総会前日の4月9日に地震被害が大きかった阿武隈鉄道の被害状況視察（写真）に立憲民主党の国会議員、県議、私鉄総連など約20人が入りました。労働組合との連携、政治活動の積み上げの大切さが総会でも報告されました。総会では当面する気仙沼市議選（4月）、石巻市議選（5月）、参議院選挙に全力をあげる方針を確認しました。

フォーラムの役割は重要 参議院選挙での前進を 秋田



社民フォーラム秋田は、4月16日（土）、フォーラムアキタで第2回総会を開催しました。

冒頭、石田寛会長（写真）は、「イージスアショアは、ポーランドとルーマニアにある。もし秋田に配備されていけば標的になるのは確実。配備計画を阻止した闘いの成果は大きかった。これまで培ってきた知恵や力を立憲民主党の仲間と力を合わせ頑張らないといけない。お互いに励ましあい、参議院選挙、来年の自治体選挙を前進させよう。我々に休む暇はない」と檄を飛ばしました。

来賓には、立憲民主党県連・寺田学幹事長、連合秋田・才村泰彦会長、県平和労組会議・小川純副議長らが出席し、連帯のあいさつでは、今年の総選挙の評価、来る参議院選挙をはじめ、反戦平和運動課題で社民フォーラムの役割が重要であることが強調されました。

総会では、総選挙で、政党機能が実感できず戸惑った報告がされました。そして、共通の課題として、議員政党から如何に地域で日常活動ができる政党へ成長させるかの努力が必要であることが強調されました。最後に、「ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議」を採択し、石田会長の力強い団結ガンバローで締めくくりました。